

1月

新着本の紹介



青字は児童書

書名	著者名	内容
継ぐ者	上田秀人	家を取るか、息子を取るか、徳川家康、究極の選択！家康は妻の瀬名と人質になっていた嫡男竹千代を今川家から取り戻し、竹千代を信長の娘と結婚させて織田家と同盟を結び、徳川家の前途は洋々かと思われたが…。家康と嫡男、悲劇の戦国ドラマ
江戸一新	門井慶喜	難事業に立ち向かった叩き上げの天才——老中・松平信綱は何故「知恵伊豆」と称されたか？明暦3年（1657）1月、江戸が燃え尽きた——。のちに言う「明暦の大火」日本史上最大、世界史的に見ても有数の焼失面積と死者数を出したこの大惨事に立ち上がった男がいた。代官の息子に生まれながら、先代将軍・家光の小姓から立身出世を遂げた老中・松平伊豆守信綱。現在の東京に繋がる大都市・大江戸への「建て替え」が始まった！
ワンダーランド急行	荻原浩	似ているが……ここは私の世界じゃない——作品初出は、コロナ禍で行動制限中の日経新聞。主人公が迷い込んだ異世界が現実を先取り？会社をサボり、スーツで山に登った40歳の野崎修作。「日常」に戻ると、街も家も会社も、何かおかしい。どこかで聞いたような疫病が世界を分断し、新宗教の持つ票があらゆる選挙を左右し
踏切の幽霊	高野和明	マスコミには決して書けないことがある——都会の片隅にある踏切で撮影された、一枚の心霊写真。同じ踏切では、列車の非常停止が相次いでいた。雑誌記者の松田は、読者からの投稿をもとに心霊ネタの取材に乗り出すが、やがて彼の調査は幽霊事件にまつわる思わぬ真実に辿り着く。1994年冬、東京・下北沢で起こった怪異の全貌を描き、読む者に慄くような感動をもたらす幽霊小説の決定版！
貸本屋おせん	高瀬 乃一	第100回オール讀物新人賞を満場一致で受賞した著者が、満を持して送り出す初の作品集。文化年間の江戸浅草。女手ひとつで貸本屋を営む〈おせん〉。読本をめぐる身にかかってくる事件の数々に立ち向かうおせんの奮闘を描く捕物帖。盛りに向かう当時の読本文化の豊饒さも本好きには多ならない！
タングル	真山仁	シンガポールを舞台に描く熱き人間ドラマ追い詰められたニッポンは再びライジング・サンとなれるのか！？地球温暖化を防ぎ、世界を変える可能性を持つ光量子コンピューター開発の第一人者である東都大学早乙女教授は、開発に前向きでない日本を見限りシンガポールの地で研究を進めていた。モノ作り大国だった頃の天才的な技術者を募り、シンガポールの若者達を教育しながら前進する早乙女研究所。実現化が見えてきた時に利権を狙う大国たちが介入しようとしてきて……。そしてあの男が早乙女教授の前に姿を現した……。
月の立つ林で	青山美智子	つまりいてばかりの日常の中、それぞれが耳にしたのはタケトリ・オキナという男性のポッドキャスト『ツキない話』だった。長年勤めた病院を辞めた元看護師、売れないながらも夢を諦めきれない芸人、娘や妻との関係の変化に寂しさを抱える二輪自動車整備士、親から離れて早く自立したいと願う女子高生、仕事が順調になるにつれ家族とのバランスに悩むアクセサリー作家。月に関する語り心寄せながら、彼ら自身も彼らの思いも満ち欠けを繰り返す、新しくてかけがえのない毎日を紡いでいく——。最後に仕掛けられた驚きの事実と読後に気づく見えない繋がりが胸を打つ。
骨灰	冲方丁	大手建設企業のIR部で勤務する松永光弘は、自社の高層ビルの建設現場の地下へ調査に向かっていた。目的は、その現場について『火が出た』『いるだけで病気になる』『人骨が出た』というツイートの真偽を確かめること。異常な乾燥と、嫌な臭い——人が骨まで灰になる臭い——を感じながら調査を進めると、四角い縦穴のある謎の祭祀場にたどり着く。穴の中には男が鎖でつながれていた。数々の異常な現象に見舞われ、パニックに陥りながらも男を解放し、地上に戻った光弘だったが、それは更なる恐怖の入り口に過ぎなかった。

中庭のオレンジ	吉田篤弘	やすらぎのひとつときに、心にあかりを灯す21話の物語。◇オオカミの先生の〈ヴァンパイア〉退治◇五番目のホリーに託されたスープの秘密◇ギター弾きの少女の恋◇5391番目の迷える羊◇予言犬ジェラルドと花を運ぶ舟◇遠い場所で響き合う夜の合奏◇天使が見つけた常夜灯のぬくもり……ほか 中公文庫既刊関連作を含む至福の掌篇小説集。
鎌倉駅徒歩8分、空室あり	越智 月子	誰かと生活することは、めんどくさいけどあたたかい。鎌倉駅から徒歩8分。木々と小鳥に囲まれたシェアハウスには、今日もカレーとコーヒーの香りがいっぱい。まだ空室あり。鎌倉のカフェを引き継いだ香良。ある日離婚した親友が押しかけてきて、いつの間にかシェアハウスをはじめめることに！ 次々やって来る入居者たちは、みんなちょっとワケあり。慣れない他人との共同生活に、イラっとしたり文句を言ったりもするけれど……。 家族だから言えない、家族だから甘えられない。そんなひとりぼっちになった住人たちが見つけた新しい形のきずな。
教誨	柚月裕子	女性死刑囚の心に迫る本格的長編犯罪小説！ 幼女二人を殺害した彼女が最期に遺した言葉――「約束は守ったよ、褒めて」吉沢香純と母の静江は、遠縁の死刑囚三原響子から身柄引受人に指名され、刑の執行後に東京拘置所で遺骨と遺品を受け取った。響子は十年前、我が子も含む女兒二人を殺めたとされた。香純は、響子の遺骨を三原家の墓におさめてもらうため、菩提寺がある青森県相野町を単身訪れる。香純は、響子が最期に遺した言葉の真意を探るため、事件を知る関係者と面会を重ねてゆく。
おばけのかわをむいたら	たなか ひかる	ほそながいおばけのかわをむいたら、出てきたのは、おすもうさん！？ まるいおばけ、かたいおばけ、いがいがおばけ…。いろいろなおばけのかわをむいたら、なにが出てくる？
はるなつあきふゆのたからさがし	矢原由布子	おさんぽが大好きな絵本作家、矢原由布子さんが描く、上大岡周辺の草・木・花の季節ごとの変化を観察できる絵本。監修は植物観察家の鈴木純さん。みどころやおもしろい不思議をたくさん発見できます。いつもの町も、植物と一緒にだとスペシャルになります！

【お知らせ】

新しい雑誌を配架しました！

■一般書

■NHKテレビテキスト「囲碁講座」 ■「すてきにハンドメイド

■「ESSE」

■児童書

